

令和7年度 学力・学習状況調査結果

※青数字は市や県より高く、赤数字は低い数値

	平均正答率 (%)				標準スコア		
	植柳小	八代市	熊本県	全国	植柳小	八代市	熊本県
国語	72.5	73.6	73.3	73.2	50.4	50.8	50.8
算数	77.6	73	73.1	68.9	54.2	52.1	52.1
社会	66.9	64.5		67.5	標準スコア…全国の正答率を50としたときの換算値。50より大きければ全国平均より高く、小さければ低い		
理科	62.8	67.8		65.7			

【結果と課題】

市及び県学力・学習状況調査の学校全体（1年生は調査対象外）の平均正答率と標準スコアをお知らせします。学年のデータは公開していませんが、各学年の経年変化を見ると、全ての学年で昨年に比べ伸びが確認できました。国語科については3、4年生が市や県より高い結果となり、算数科については3年生以上の全ての学年で高い結果となりました。特に、3、4年生の学力は比較的高く、5年生と6年生は標準スコアは平均値に満たない教科もありましたが、昨年に比べると大きく伸びていることが確認できました。今年度は学習規律（話をしっかり聴く、よく考える）と、基礎基本の徹底に力を入れ、授業の改善にも力を入れた結果と考えています。

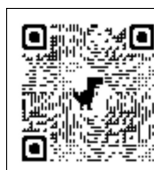
●学習以外の課題

- ・ゲームやスマホを使用する時間に個人差はあるが、とても長い
- ・全ての学年で読書量が少ない。（読む人と読まない人の差も顕著）

【今後の対応】全ての学年が昨年度よりも正答率は伸びており、素直に喜びたいと思います。学習についても、「やればできる」を合い言葉に、基礎基本の指導に力を入れ、子供たちも粘り強く考え、習得していった結果であることは間違いありません。しかし、学年や教科別に見ると課題が残った学年や教科もあります。今回の調査結果を受けて、職員がそれぞれの学級の課題を詳細に分析し、一人一人の課題に合った内容を重点的に補い、克服して進級・進学をさせたいと思います。

植柳っ子の『伸びしろ』はまだまだあります。学習の課題も含めて、学習以外の課題もご家庭と連携して一つ一つ改善し、達成感と自信につなげていきたいと思っています。

県(市)学力・学習状況調査結果



R8年2月6日

文責：校長

「自立」に必要な非認知能力

【非認知能力とは】非認知能力は、テストの点数やIQといった数値で測れる「認知能力」とは違い、数値化しにくい子どもの内面の力を指します。具体的には、目標に向かって粘り強く取り組む忍耐力や自制心、目標への情熱、自己効力感といった「目標を達成する力」、社会性や思いやり、共感性、信頼と

いった「他者と協働する力」、さらに、自尊心や自信などの「感情をコントロールする力」も含まれます。この能力があれば全てが解決するというわけではありませんが、これらの力が育っていると、学校で嫌なことがあったり失敗したりしても、「次はうまくいく」と前向きに切り替えやすくなります。本校では、そのような気持ちを『やればできる!』と、自分自信に暗示をかけ、行動に移す態度を養いたいと考えています。では、その非認知能力を高めるためには、次のような高い体験が重要と言われています。

(一)五感を刺激する体験

五感への刺激は、“自分で感じて考える力”を育てます。机上では得られない生の情報に触れることで、状況を読み取り、自ら判断して動くプロセスが生まれ、非認知能力の土台が育っていきます。

(二)“本物”に触れる体験

ゲームやネット等の疑似体験ではなく、寒暖の差や風、土の感触、森の香りといった五感への刺激は、“自分で感じて考える力”を育てます。机上では得られない生の情報に触れることで、状況を読み取り、自ら判断して動くプロセスが生まれ、非認知能力の土台が育っていきます。

(三)失敗を乗り越えながら試行錯誤する体験

何かに挑戦すれば、うまく行くときもあれば、そうでない時もあります。その小さな壁を乗り越える経験こそが大切です。子どもが失敗しないようにと、親が先回りしせず、子どもが試行錯誤を見守り、時に支援することが「やればできる」という自己効力を育てます。

(四)小さな失敗を乗り越えながら試行錯誤する体験

家族や友だちといっしょに楽しみながら挑戦し、何かを成し遂げる経験は、思いやりや調整力、粘り強さなどが自然と育っていきます。

(五)誰かのためになる体験

自分のとった行動が、誰かの役に立つ体験には大きな意味があります。その「誰かの役に立てた」という実感は、子どもの非認知能力を育てる大切なきっかけになります。本校では、非認知能力育成の基盤となる「自主」「自立」「自信」の3つの自を大切にした教育活動を進めているところです。